

令和５年度 近畿大学泉州高等学校 学校評価

1 めざす学校像

本校の校訓である「誠実」「礼節」「友愛」の精神を育むとともに、近畿大学の教育の目的である、人に「愛される人」「信頼される人」「尊敬される人」を育成することをめざす。 ＊ 育てたい生徒像：他人を思いやれる心を有し、社会に有為な人材と認められる生徒 ＊ 目標とする学校像：自主・自立の精神のもと教員、生徒がともに人間的に成長する場 このような観点から、あらゆる教育活動を通して主体的に学ぶ学校環境を作る。
--

2 中期的目標および実施項目

A 確かな学力の育成 近畿大学特別推薦入試制度の理念（リーダー養成，自校理解教育，確かな学力）を踏まえ，以下の項目について改善する。 ア 英語検定，漢字検定，数学検定，GTEC，TOEIC などの検定合格率および得点増を目的とする補習授業を導入し，学年ごとの一斉受験機会を設定する。 上記項目に関しては，自己評価にて結果を分析し，次年度への目標設定とする。 イ 基礎学力アップの補習，国公立大学入試対策補習の導入により，生徒の実態に応じて学力を伸ばす態勢を作る。 ウ 理系クラスを少人数クラス展開とし，学力の向上をはかる。物理，生物，数学において能力別少人数クラスの設定を行う。 エ 図書館活動を活性化し，読書量の増加を目指す。 オ 放課後サテライト授業の受講希望者増加にともない，サテライト教室・自習室の整備・拡張を行い，学年ごとに受講・自習できる環境整備を行う。 カ 大学広報担当者による講演会，外部講師（英語，国語）による大学入試対策講座を実施する。 キ 大学入試および学力アップのための教員対象研修会を実施する。 B 進路希望の実現 ア 近畿大学および国公立大学志願者を増加させる。 イ 薬学部，歯学部，看護学部など医療系学部の受験に対応した選択授業科目を設定し，細やかな指導を行って合格へつなげる。 ウ 私立大学文系学部志望者へも数学，理科の教科指導を行い，基礎学力を高める。 エ 大学オープンキャンパスへの参加，授業（英会話や実験）体験の機会等を増やし，志望動機を高める。 C リーダーシップ，人間力を高める取り組み ア 生徒会活動，クラブ活動を生徒主体に運営させていく。 イ 体育祭，文化祭，入学式，卒業式などを生徒会主体の運営へ移行していく。 ウ いじめアンケートなど生徒の意識に関するアンケートを実施することにより，クラス内弱者をなくす意識を涵養する。各学期に１度，年間３回のアンケート調査を実施する。 エ AED 講習を高校２年生全員に受講させる。薬物乱用に関する講演会を全校生徒に行う。性に関する講演会を高校１年生，３年生対象に実施し，生命，生活に対して確かな知識と意識を涵養する。 D グローバル化への対応 ア コロナ禍で中断していた希望者対象の１年間留学，３ヶ月留学，２週間語学研修（アメリカ・オレゴン州）を令和５年度より再開する。今後，さらに参加者が増加するように研修時期，研修後に欠席した通常授業の補完を考慮する。 イ コロナ禍で中断していたハワイ修学旅行を令和５年度より再開し，語学体験，異文化理解・交流，社会に出る前の国際経験を身につける。 ウ アの参加者および希望者に対して，近畿大学英語村特別プログラム受講を令和５年より再開する。 エ アメリカ・オレゴン州のルーズベルト校との交流（交換留学）を令和５年度より再開し，夏期には留学生の本校生徒家庭でのホームステイの受け入れ，本校生との各種交流を実施する予定である。 オ オーストラリアのパースへの１０日間の語学研修(一家族１名のホームステイ)を実施する予定である。 E 地域・保護者との連携，社会貢献 ア 文化祭を近隣住民へ開放し，バザーでの収益を被災地義捐金としている。 イ 税理士を招いての「税の講習会」の実施，２年生全員の「税の作文」の応募など，税務署の活動への協力を行っている。 ウ 保護者会向け講演会，授業参観を実施している。 エ 保護者，生徒向け一斉メールはほぼ全保護者・生徒が加入しているため，緊急時（災害など）の連絡を確実に取ることができる。また，一斉メール配信を学年ごとに設定変更したため，保護者が必要な連絡内容を十分に把握できるようになった。 F 健全な経営状況の維持 ア 生徒募集における定員確保 イ 耐震等の改修補強工事实施 ウ スクールバス収支の改善
--

【自己評価アンケートの結果分析・学校協議会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析〔令和６年２月実施分〕	学校協議会からの意見
○保護者アンケート ※ 前年度 31 項目より、オンライン教育 2 項目、生徒活動・クラブ活動 1 項目、感染症対策 1 項目が増え、35 項目でアンケート 【35 項目中「(よく)あてはまる」の割合が 80%以上の項目・数値の高い順】 ① 生徒は、全体として校則をよく守っていると思う。96.7% ② 生徒の個人情報がよく守られている。94.1% ③ 学校の特色は、進路目標の実現である。93.3% ④ 基本的な社会ルールを守る態度を育てようとしている。90.8% ⑤ 学校の施設・設備は、丁寧に使われている。90.4% ⑥ 校内や学校行事等での感染対策は適切である。90.0% ⑦ 子どもは、学校行事に積極的に参加している。88.7% ⑧ 学習評価（定期考査、提出物等）は、適切である。88.3% ⑨ 先生は、問題が起こればすぐに対応してくれる。87.3% ⑩ 校内での事故防止に施設設備面で配慮している。86.1% ⑪ 保護者として、この学校に通わせて満足している。84.9% ⑫ 学校の教育方針が保護者に適切に伝えられている。83.7% ⑬ さまざまな学校行事があり、活発である。82.0% ⑭ 生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている。80.3% ⑮ 生徒の進路に関する情報を適切に提供している。80.3% ☆ 前年度 20 項目から 5 項目の減少 【35 項目中「(よく)あてはまる」の割合が 70%未満の項目・数値の低い順】 ① 学校が提供するオンライン教育を活用し、力をつけている。48.7% ② 保護者や地域の人たちと話す機会を多く持っている。55.5% ③ 生徒会活動・クラブ活動は活発である。61.9% ④ 子どもは、学校から保護者宛に出された文書を必ず渡している。62.3% ⑤ 地震・火災に備え、生徒に避難マニュアルが周知されている。63.9% ⑥ 学校から出される課題や宿題は、適切な量と内容である。66.5% ⑦ 授業はわかりやすく、丁寧に教えてくれると言っている。68.6% ⑧ この学校に入学して以来、家庭学習の時間は増えた。68.9% ⑨ 子どもは、学校の雰囲気がよく、毎日が楽しいと言っている。69.5% ☆ 前年度 6 項目から 3 項目の増加 〔分析〕 教員に対する評価の項目が低下している。熱意のこもった指導 79.0%や家庭との意思疎通 71.0%、生徒の悩みや相談に応じる態度 78.1%や子どもの心身や健康についての相談 72.0%、進路の指導 79.0%など、いずれの項目も 1 学年での低下傾向が大きい。 学校内の IT インフラ整備ができておらず、オンライン教育の項目は非常に低い。（1 学年では 38.4%）モバイルサテラインなどの教材や Google Class-Room の活用などの IT 活用の評価も低い。（1 学年では 66.4%） ○教職員アンケート 【40 項目中「(よく)あてはまる」の割合が 90%以上の項目・数値の高い順】 ① 生徒は、全体として校則をよく守っていると思う。93.8% ② 生徒指導において、家庭との連携ができている。93.5% ③ 校内や学校行事等での感染対策は適切である。93.5% ④ 生徒は、学校行事に積極的に参加している。90.6% ⑤ 学校の施設・設備は、丁寧に使われている。90.6% ⑥ 生徒にわかりやすい授業を実践することができている。90.0% ☆ 前年度 9 項目から 3 項目の減少 〔分析〕 保護者・教職員とも生徒の校則遵守の項目は高評価である。しかし、家庭との連携やわかりやすい授業の実践では、保護者との認識に隔たりがある。 また、各種会議の有効性や授業参観・研究授業、地域交流に対するの評価が低い。さらに、財務状況・施設設備・学習環境など、特に「理事会等における学園の運営に関する必要事項は報告されている。」の項目は、年々低くなり 13.3%となっている。 〔全体感〕 1 昨年度より、昨年・本年度と学校評価アンケートの評価が低下している。	○保護者アンケートについて ・生徒間のトラブルからいじめなどの深刻な問題に発展しないよう、今後とも生徒間の些細な言動から変化を把握できるよう、注意深く指導していく必要がある。 ・生徒会や生徒会ボランティアスタッフの活動が活発化しており、一定人数(約 51 名) が活動している点は評価できる。 ・勉強だけでなく、生徒会活動やクラブ活動とも積極的に参加する生徒が増加していることも評価できる。 ・保護者の意識は、子どもが安心・安全に大学進学のための学習に専念できることを期待する傾向が大きくなっている。今後もこれらの点を重視して欲しい。 ・進路保障やグローバル化への対応プログラムが用意されていることは評価できる。 ・令和 5 年度は、多くの行事が復活し、保護者対象の研修会等の学校行事に保護者が積極的に参加していることは評価できる。 ・年 2 回の保護者、生徒、クラス担任による三者懇談会など、保護者の意見を聞くことが出来る機会は用意されているが、進路説明会などにおいても内容をさらに充実させるとともに、保護者からの意見を聞ける機会を積極的に取り入れるべきである。 ○教職員アンケートについて 1. 労働管理について ・休日学校閉鎖を実施している（強化クラブの練習は実施）。 ・平日 19 時、土曜日 17 時の完全施錠が行われている。 ・火曜、木曜、土曜の放課後補習は学年ごとに実施教科、担当教員を決めて行っており、補習手当が支払われている。 ・強化クラブである野球部や男子バレー部の指導者については平日に振替休日 1 日を取得できるように時間割等の配慮を行っている。 以上のことは評価できる。 2. 教職員研修について ・大学教員によるカウンセリング研修、「予備校講師による校内授業」の参観、教職員向け研修会が実施されていることは評価できる。 ただ、研修内容を教職員が消化しきれずに業務過多に陥ることがないよう、研修会を年間計画に基づいて定期的かつ効率的に実施すべきである。 3. 財務状況および校舎改修工事について ・令和 3 ～6 年度の 4 年間、入学生の実定員確保ができていない状況であり、安定した財務状況を確保するためには、生徒募集活動の充実と結果が求められる。 ・令和 5 年度には未実施部分の耐震改修補強工事を行っており、生徒の安心・安全面を確保されている。また、スクールバスの収支改善も行っており、学校全体の収支改善の努力が見られる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
A 確かな学力の育成	(1) 英語検定、漢字検定、数学検定、GTEC、TOEICなどの検定合格率および得点増を目的とする補習授業の導入および学年ごとの一斉受験機会を設定する。	(1) 各種検定の実施計画・内容 3検定の実施時期 (学年統一実施) ＊統一実施回以外は希望者受験 ①英語検定 高校1年次9月 高校1年次2月 高校2年次1月 ②漢字検定 高校1年次6月 高校2年次10月 ③数学検定 高校1年次2月 高校2年次2月 <		

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
C リーダーシップ、 人間力を高める取り組み	(1) 生徒会および生徒会ボランティアスタッフの活動の活性化	(1) ①入学式、卒業式、体育祭、文化祭、外国人留学生の歓送迎行事、オープンスクールなど各種行事における準備・運営 ②文化祭において生徒会チャリティーバザーを実施 ③②以外の義援金募金活動	(1) 目標；活動人数、活動数の増加 〔結果〕本年度の生徒スタッフは 51 名であった。 ①外国人語学研修生の歓迎会やお別れ会、体育祭、文化祭では準備や運営などを進んで行き、学校行事の活性化に寄与した。オープンスクールなどの中学生向けの行事では、中学生、保護者の校内案内や交流、体験授業補助など大いに活躍した。中学生、保護者に非常に良い評判をいただいた。 ②売り上げを日本赤十字社に寄付した。 ③令和 5 年 12 月に歳末募金と令和 6 年 2 月に能登半島地震義援金募金を行った。	(1) 生徒スタッフの活動については、令和元年度より開始して 5 年目となる。昨年度に比べて在籍数が減り、スタッフの人数が減ったものの、生徒スタッフになった生徒の割合は令和 4 年度 11.8%、令和 5 年度 12.1%と横ばいである。自主的に学校行事に携わっていこうという意識をもつ生徒の数は大きく変わっていない。今後は 15%以上の生徒が生徒スタッフとして行事の運営に携わり、リーダーシップを発揮することを目標に、参加を呼び掛けていく。
D グローバル化への対応と取組	グローバル化への対応と取組を積極的に行う	(1) ア 2023 年 8 月 18 日～2024 年 6 月 9 日 長期留学 イ 3 月 8 日～20 日 アメリカ・ポートランドへの 2 週間語学研修 ウ 11 月 1 日～5 日 ハワイ修学旅行 エ 7 月 11 日～19 日 アメリカ・ルーズベルト高校生の受け入れ	(1) 目標；海外研修行事への参加者数を増加させる。 〔結果〕 左記 アの 1 年間の長期留学 1 名 イの 2 週間語学研修 5 名 ウの修学旅行 126 名参加 エのルーズベルト高校生 8 名受け入れ	(1) ア・イ そもそも円安や米国の物価上昇などの影響による費用面での問題から申し込み生徒が少ないと思われる。イに関しては、対費用効果の高い魅力的な内容の研修が提供できるよう検討すべきである。「語学力の向上」と「異文化交流や体験」のどちらを第一の目標として据えるのかと、その研修内容について、担当旅行業者や現地のプログラムコーディネーターと協議していく必要があるかもしれない。 ウ 研修内容はコロナ前と概ね同じであったが、3 日目のパールハーバー戦艦ミズーリ記念館への訪問は生徒にとって非常に意義のあるものになったと思う。食事については、費用の都合上、全行程を通して学年・クラスが揃って食事を摂る機会が少なかった。食事は生徒の健康状態を確認する上で重要な機会であるため、多少コストがかかっても教師の管理の下で食事を摂らせる機会を増やすべきである。各教科とも連携を取りながら、体系的な事前・事後指導を検討すべきである。 エ 校内での授業体験は研修生を参加させる授業の選定が難しい。教科による偏りがなく、また研修生が出来るだけ多くの生徒・教師との関わりを持てるよう調整が必要である。岸和田城、奈良、広島など校外での研修は、研修生にとって満足いくものであったようであるが、行き先や研修内容、費用については今後も検討の必要がある。
E 地域・保護者との連携、社会貢献	地域との関わりおよび貢献活動を積極的に行う	(2) ①文化祭の近隣住民の方への開放 ②税務署との活動に参加 「税の作文」提出	(2) 〔結果〕 ①については、少ないが本年も来場者があった。 ②については、岸和田税務署より税理士の方を招いて講演をしていただき、2 学年全員が「税の作文」に応募し、1 名が岸和田税務署長賞を、1 名が岸和田・貝塚地区租税教室推進協議会会長賞を受賞した。	(2) 地域、地元税務署および警察署との協力関係は良好である。 しかし、だんじり祭りをはじめとした学校周辺地域との交流は、コロナ禍を境に大きく減ってしまったきり、なかなか元のように再開できていない。だが、地域住民に開放している文化祭での生徒会チャリティーバザーで購入される方もあり、今後、地域との関わりを少しずつ増やしていきたい。周辺地域は少子高齢化が顕著である。本校として周辺地域に貢献できることを考えていきたい。
F 健全な経営状況の維持	健全な経営状況の維持を行う	(1) ア 生徒募集における定員確保 イ 耐震改修補強工事実施 ウ スクールバス収支の改善	(1) ア 目標；経営の健全化 令和 4 年度在籍者数；511 名 令和 5 年度在籍者数；428 名 83 名減少（昨年度減少数 152 名） イ 耐震改修補強工事実施 平成 30 年度：体育館・本館 A 棟実施 令和 5 年度：本館 B 棟・C 棟、耐震改修補強工事実施 ウ スクールバス新車 4 台購入	(1) ア 前年度よりも中学校教員対象説明会など多くの入試広報イベントが実施でき、参加者は前年度より増加したが、入学予定者は令和 5 年度の 163 名に対し、令和 6 年度は 6 名減の 157 名にとどまった。生徒募集活動等の改善点を検討した上で、今後一層の努力が求められる。 イ 耐震改修補強工事については、平成 30 年度に体育館・A 棟、実施し、令和 5 年度に B 棟・C 棟、実施した。 ウ スクールバス収支改善のため、令和 6 年 3 月新車 4 台購入した。 令和 6 年度スクールバス収支の改善の努力が求められる。

A 確かな学力の育成について

- ・グローバル化の時代、英語検定合格者を伸ばすことが重要である。高校2年末での英語検定2級の合格率は上昇しているが、準2級の合格率が減少している。2級合格率の目標35%にはまだまだ届いておらず、今後も目標を下げることなく、2級合格者を20%～30%へ伸ばし、最終的には35%を超えるよう平常授業およびそれとは別の対策の両面で、弱点のリスニング指導等を中心に改善をはかる必要がある。またGTEC・TOEICにも力を入れ、様々な検定への受験機会を奨励することにより、合格に向けての底上げを図ってほしい。
- ・漢字検定においては準2級以上の合格率が50%を越えているが、本離れ・読書離れなどの影響により3級に合格していない生徒が約15%おり、今後、全員3級合格を目標に取り組むことが重要である。
- 数学検定においては、準2級の合格率が50%を越えており、今後も文系・理系の生徒を問わず合格率を高め、数学力を身につけることが重要である。

B 進路希望の実現について

- ・初めての大阪大学合格者1名をはじめ、大阪公立大学4年連続合格者1名、和歌山大学に8年連続合格者1～2名を出すだけでなく、近畿大学への実合格率が49%と卒業生の約半分の生徒が近大合格を得ていることは評価できる。共通テスト対策や国公立二次試験の授業・模試・学習合宿などの機会を設けていること、学習合宿に予備校講師・大学教員を招聘して授業を行っていることは上記の合格に繋がっていることが評価できる。
- 本校としては、難関国立大学(東京大学など)を目指すのではなく、より多くの生徒を近畿大学のほか、大阪公立大、大阪教育大、和歌山大など地元国公立大へ進学させることを主眼とした態勢を構築することが重要である。
- 近畿大学進学者へは、進学後の状況調査および指導を実施している。これは、留年者や中途退学者減少に効果があり、今後も継続して行うべきである。

C リーダーシップ、人間力を高める取り組みについて

- ・生徒会および生徒会ボランティアスタッフの活動の幅が広がっていることは評価できる。今後、各種行事の運営を生徒会に委ね、教員指導のもと生徒の主体性や創造力、表現力を伸ばしていくべきである。また、自然との触れ合いを活かした学校環境を前面に出して地域とのコラボ活動(キャンプ等)も考えてほしい。
- ・リーダー養成については、大学で行われるべきこととの差異も考察しながら、高校段階で行える内容をグローバルな視点も意識しつつ、積極的に取り組んでいくべきである。
- ・人間力の涵養については、本校生徒には入学後短期間で礼儀、挨拶の習慣が定着している点が評価できる。今後も日常の教育活動を通して、自主・自立の精神、人に「愛される人」「信頼される人」「尊敬される人」を育成するための活動内容を精査すべきである。

D グローバル化への対応について

- ・グローバル化への対応については、ハワイでの修学旅行以外に、長短4種類の海外留学(語学研修)プログラムが用意されていることは評価できる。
- しかし、円安だけでなく現地の物価高騰により参加する生徒が非常に少ないので、対費用効果の高い魅力的な内容を提供できるよう検討すべきである。

E 地域・保護者との連携、社会貢献について

- ・文化祭への招待、清掃活動、マラソン大会への参加など、地域への貢献活動も行っており、近隣住民の評判が良好であった。今後、町内への回覧板、町内の掲示板へのポスター掲示により地域の方とコミュニケーションを図れる行事があれば、連携しさらに活動を広げて行き、地域貢献へ繋ぐべきである。
- ・保護者との連携に関しては、自己評価アンケート結果分析の方に記載。

F 健全な経営状況の維持

- ・令和3年度以降、入学者数が減少している。この傾向が続くことのないように、勉強しやすい学校環境を前面に出し学校説明会への積極的な誘致を行い、休日を増加することにより自らが計画を立て前向きに学力の向上を図る魅力的な教育活動の発信と従来以上に和歌山・堺方面への生徒募集活動の充実を図るべきである。
- ・令和5年度には、耐震改修補強工事もすべて終え、スクールバス収支改善を行ったことは評価できる。施設整備については、生徒の安全・安心にかかわる部分を最優先で改善していきながら、全体については中長期的視野に立ってしっかりと計画的に行うべきである。

【その他】

- ・自己評価アンケートでの「要改善」項目をなくすよう努力すべきである。保護者への連絡や教員間の情報共有をより密にすることが重要であると思われる。
- ・ホームページについては、すべての行事について最新の内容がアップされており、学校内の様子が良くわかる点は評価できる。

学校協議会学外委員 地域中学校校長1名、地域連合自治会長1名、PTA会長1名、教育後援会会長1名、卒業生代表1名
学校協議会学内委員 校長、教頭、教務部長、総務部長、事務長

以 上